

ごあいさつ



鹿児島市長
下鶴 隆央

始良市と鹿児島市共同で整備を進めてきました、奥之宇都線宇都トンネルが開通の運びとなり、大変喜ばしく存じます。

奥之宇都線幹線道路整備事業は、人口減少が急速に進行する中、新たな人の流れを作り、地域経済の活性化に寄与するものであり、本市や始良市など4市で構成する「かごしま連携中枢都市圏」の圏域全体の浮場につながる取組のひとつでございます。

これまで、ご支援、ご協力を賜りました地域の皆様をはじめ、両市議会や関係者の方々に心から感謝申し上げます。

本市といたしましては、道路、橋りょう、トンネルといった市民生活の基幹となるインフラについて、長寿命化や計画的な点検・修繕を進めるなど、引き続き人口減少時代においても持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。

結びに開通を迎えました宇都トンネルが、安全で円滑な交通を支える道路として地域の皆様に末永く親しまれますとともに、両市間の交流をさらに促進し、圏域全体の活性化に寄与することを祈念いたします。



始良市長
湯元 敏浩

奥之宇都線宇都トンネル開通を迎えることができ、心からお祝いしたいと思います。

今回開通したことに伴い、鹿児島市と始良市の物流と人流がさらに盛んになり、経済の活性化と観光交流人口の増加に大きな期待がかかります。ひとえに市民の皆様をはじめ、関係機関の方々のご尽力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

本市は、特に子育て世代の方々に多く住んでいただき、活気のあるまちに成長しております。そのような中、鹿児島県版「住みこちランキング2020」で高評価をいただきました。私たちは、これに慢心することなく宇都トンネル開通により更に住みやすいまちへとステップアップし、さらなる高みを目指して、まさに住んでいる皆さんが「心地いい」と思えるようなまちであり続けたいと思います。

事業概要

【事業目的】

宇都隧道は、鹿児島市と始良市を結ぶ延長241mのトンネルで、幅員が狭く有効高さが3.8mしかないため、大型車の離合が困難な状況でした。トンネル内のコンクリートは老朽化が進み、ひび割れによる漏水が一部見受けられる状況にあったことから、道路交通の円滑化や安全性の向上を目的に、両市が連携して新たなトンネルの整備を行ったものです。

【事業効果】

● 交通の円滑化及び道路環境の改善

開通により、大型車両相互の離合も容易となり、道路交通の円滑化が図られます。

また、周辺には、道路に近接して複数の事業所もあり、それらの出入りにおいても円滑化が図られ、通行車両相互の安全性が向上するとともに道路環境が改善されます。

● 時間短縮効果・物流効率の向上

大型車両については、トンネルが狭隘であったため、迂回する case もありましたが、その解消が図られ、時間短縮や物流の効率化が期待できます。

● トンネル内の歩行空間の確保

歩行者の利用も兼ねた管理用通路を両側に設けているため、車道と分離した安全な歩行空間が確保できます。

整備概要

路線名	奥之宇都線（両市とも同一路線名）
整備場所	鹿児島市東佐多町 ～ 始良市蒲生町下久徳
全体延長	798m（鹿児島市 503m 始良市 295m）
	トンネル部 272m（鹿児島市 133m 始良市 139m）
	取付道路部 526m（鹿児島市 370m 始良市 156m）
幅員	トンネル部 8.5m（車道 6.0m 2車線 路肩両側 0.5m 管理用通路両側 0.75m）
	取付道路部 8.0～7.5m（車道 6.0m 2車線 路肩両側 1.0～0.75m）
総事業費	総額概算 19億9千万円（鹿児島市 10億7千万円 始良市 9億2千万円）
事業期間	平成25年12月 ～ 令和3年3月



事業経過（着手から開通まで）

平成25年度	地質調査（ボーリング調査など）
26年度	測量設計（トンネル・取付道路） 事業用地取得
27年度	事業用地取得
28年度	照明設備設計、事業用地取得
29年度	坑口取付道路工事、地盤改良工事
30年度	トンネル本体工事着手
令和元年度	トンネル本体工事完成
2年度	トンネル内工事（側溝・舗装・照明） 取付道路工事、開通

トンネル標準断面図

